

補
史

訓
子
國
三
果
大
生

九

4064489
v.9

頭書增補訓蒙圖彙卷之二十

花草

此部にいらぬくの草
牡丹

○牡丹がたんのゆきみ
 ぐさともんろく
 さともいふ花乃
 まともをばふ花多
 一いっ白はくあり花と
 上品じゆんともをむ花の
 富貴ふき多りのひ
 一いっ古こ人も賞しょうせ
 一いっ名な花王かおう又本
 芍薬せきやくといふ牡丹
 皮ひとを茶ちやに用もちひ

まろく
ぐさ

牡丹

ふん
ぐさ



○葵の類名あり
 葉大なりて花は
 紅又は白なり又月
 花さく実いたる
 括のてくわさう
 とくして扁なり
 ○蜀葵のつわふ
 ひかり花をさふ
 ち濃紅別て
 うは背葵同又
 戎葵ともいふ
 ○錦葵のつわふ
 かり又浅葵ともいふ
 荆葵曰

錦葵 きんき
 このふひ

葵 あひ
 わふひ

蜀葵 しゆくき

つわふ



○芙蓉の葉萎

のぞく花紅白

一重子重わら

ふの木槿似く大

かり清く美あり

七月花さく

○龍膽の花楕板

の花れまのぞく

葉の盆のぞく

九月のぞく花さく

俗ふらんぞくと

芙蓉

龍膽

まやまご



○秋葵一名黃蜀葵
 葵と云ふ又側金盞

華と云ふとせむくき

わの秋と云ふ葵

花と俗に云ふ

○葵の稷は似く

實か一名狗尾

草と黍粟の中に

生と俗に云ふ

草と云ふ

○金錢花は午時

花ともいふ秋花

云ふと云ふ

一名子午花

秋葵

葵

金錢花

ごい



○蘭らんの莖こゝろむし

ふたふた葉はみよる

多おほくり水みづ沢たけのやと

アホ生あほぞ花はな黄き

白しろくしてくしと

葉はの品しな類るい後ご

○風ふう蘭らんの一名と

桂けい蘭らんも吊つり蘭らん

ともくは数かずり

岩い蘭らん岩い石い蘭らん

かしのあかり

蘭らん
ふた
むし

風ふう蘭らん



○鷄冠の葉見

に似く少し長

く莖赤く花と

赤黄又い実りる

六七月花さるお

後してあり鷄冠

花とも書なり

○秋海棠の秋

花さくうとわき

莖葉ともふ也

あつたのを

秋の海棠

鷄冠

けいこうが



本草綱目卷之七

○剪秋羅の花

石竹のごとく朱

色にくと英方り

六月花咲ふー

黒とのふもけ秋也

○剪春羅の花

の色せんとうまろ

花く黄まわり

○蕙苺の子白と

黒を蕙苺子と

の五臓と活と

剪秋羅 せんしやうが

剪春羅 せんしやうが

蕙苺 けいびい



○百合の品類多
此花三月末より咲

わくとわわり

○卷丹の七日月

花さくまふて実

赤く又六尺もさ

のびし花多くさく

葉のちねんをさ

とげと一名番山丹

○山丹の四月初め

花さくふくして赤

白五葉の柄赤也

うらら 渥丹同

け外敷多くあり

百合
ゆり

卷丹
けんたん
ゆり

山丹
さんたん
ゆり



○他偷たゆの四月しがつの

末すえより花はなさく其その

品しな多く花はな黄きき

わんわんふふ花はなとふ

種しゆくろくも又秋

さく花はなりあり

○麗春れいしゆんの三月さんがつに

花はなさく一ひとさいの初はつめ

子こさいの初はつめてつ

白しろ一名ひと名な仙せん女にょ薔せう

又また御ご仙せん花はなとの人ひと

花言草部

他偷たゆ

花はな紅べに

麗春れいしゆん

白しろ一名ひと名な仙せん女にょ薔せう



○金盞花の花

の如くは玉盞の如

く色赤く三月

花さく今保く七

全残花といふ全

残花の別持多

○春菊の花白く

あやい黄やう云

月花う蒿菜

花といふといふの

時食を

金盞花

くん

春菊

く



○蒲公英の花

白と大なり其花

小なり二三月

花より葉はより

て食と

○莖菜一名葉

頭草と云とも

その花より葉は

白花より葉は

の葉は丸く小也

○虎杖は月水

通利痰血を破

渴紙や小便を利

暖くを油と治す

蒲公英

かん

虎杖

と



莖菜

と



○萱草の花
 卷丹のこころ美
 赤く初夏よ咲
 香あり香気ありて
 食と水氣乳よ
 うそま痛と治そ
 食気消とこのん
 でくうば悦てこま
 ひかしく花をま
 のりの毒ありあや
 ゆうそ喰ふくは
 ○酢漿水二名酸
 草とく俗よ云
 とりのみづ

えんぞう
 萱草

まき
 ぎ

酢漿
 水



○射干やせがきのひのき

こもりの草のうら

捨ひのき扇ふし似にる花はなの

若わか赤あか一いつ月げつ花はな

さく鳥う扇せん鳥う畢ひ

かかびびふふ同どう

○蝴蝶花ことうけいの射干やせん

の類るい多おほり三月さんげつ白しろき

花はな咲さき中なかにありり

俗ぞく小こやぢぢんといふ

ふやふかか射干やせんの音ね

をを認たしりものもの多おほし

○夏枯草なつこくそうの野のり

多おほくく蔞しん菜さい花はな咲さく

射干やせん

ひのき

蝴蝶花ことうけい なつが

夏枯草なつこくそう

うらがき



○鴉尾の葉の射

于にやうり花の

ひくさ死やう花

を紫羅傘と

の四月花さく

○馬蘭の沢邊

小宮と氣の池

花のあやめたふく

細く色もうじ

馬棟ともいふ

の初花さく

鴉尾

鴨脚花

馬蘭



頂書譜補別家圖集七

○牡若の水中に

生じ花はふし七

色栝梗の花は

はくろり長

のくろり花

○菖蒲の花牡

若小似く小

葉も細く小

蒲とい別種

花より花菖

蒲とい一種

菖蒲の葉

牡若

つゝ

菖蒲

のや



○様錦ようきんの六七月

葉は紅くわいかり黄緑きやうりく

色いろ瓜うりのなと十じゅう様さむらい

錦きんといつ又また層らん素そうと

紅くわいかりは瓜うり層らん素そうと

といつ俗ぞくと葉は錦きん改かい

といつあり

○栝くわく梗けいい花はなば菜さいと

白はくあり一いつ重じゆう五ご四しと

孫まご五ご六ろく月げつふふひひと

又また梗けい草そうとあぐ

様錦ようきん

さみ
ぢ
と

栝梗くわくけい

きさき



頁
世
曾
補
別
袋
圖
集
七

○鳥頭の花きき

やうの花の色あり

かすら鳥の頭れ如

一赤とろとろと

乃くくらに似たり

九月花さく

○鳳仙花の花紅

白のなと七月こか

さく又金鳳花と

ゆふ花ふ美は黒

わりと

鳥頭

ふと

花は仙鳳



○番椒ばんしやうのせんを
活いし虫むしとこ

ろと人ひとよとくこ

○丈菊せんげきくの二名にの近ちか

湯花ゆはなといふ日輪ひろん

ふじふじの花はなかりよ

つく日車ひぐるまとも云

花菊はなきくふじふじと大也おほい

名な黄わうと白はくとも

わら

○杜蘅とこうの馬ば

蹄ていに似にたり紫むらさ

の花はな嗅か馬蹄香ばていかう

土細辛とほしんといふ

番椒ばんしやう たろたろ

丈菊せんげきく つかつか

杜蘅とこう つぶつぶ糸いとがき



頂書曾補別裁圖彙七

○薔薇の花は白

黄薔薇は千重の

の瓜牡丹

といひ一葉あるを蘇

薔薇と云一名月

紅又長春ともい

○慎火一名景天

又の戒火ともいふ

カシ瓜佛甲草と

いふなり

○苔蘚同水には

と砂粒黒と云石上

に瓜石濡尾と云

を屋遊牆と垣夜と

薔薇

いふなり

慎火

いふなり

佛甲草

苔



○酸漿さんしやうの五月ごご

白しろの花はな候まち実み赤あか

くさうろろくさうろろねじ

よろよろ金かね燈とう籠ろうと

○旋とぐるま覆えきのえき葉はと

ふふ花はなのはな葉はふふ

菊きくはは中ちゆうよりより六むい月げつ

花はなとと又また九く月げつよよい

らら花はなのの花はなとと

紫し苑えんのの夏なつとと

八はち重じゆうのの花はなかり

酸さん漿しやう
わう
つ

旋さん覆しやう

とぐるま



頂書繪補川波圖景廿

○藤の三月の末あち

ふ花さく及此末つらゆき

おそく花の長三よひ

四尺あし及ふ白花しろくわい

早くさ死こころて短みじか

一名招豆藤まうづ

○石斛せきせう石上いしの上

生なまと胃いの氣き

平ひらに皮膚ひふ

の邪熱よなつとさるさる

名石遂せきすい

本草綱目拾遺

七二



藤とう
ふた

石斛せきせう
せきせう



○棣棠の花黄は

て一重有八重有

三月花さくありひ

の地棠花とまぐ

○卷栢二名と地

栢と云石間又生ス

生みく用まひ血

と破多き血と止

○玉栢二名万年

松とも云云と石

松又玉遂ともいふ

棣棠

やまぶき

卷栢

いへ

玉栢

まんねん



○葦の水色あしのみづいろ

生なまどのままとの秀ひささ

るあららとの長なが

成なとのとの葦あしとの云い

あらのの竹たけふふゆゆくく花はな

のの秋あきののとのいい

○蓮の花あしなのはな白しろ玉たま

葉はとの荷かとのひひ根ね

との藕くろとのひひ花はなと

芙蓉ふたばとのひひ美みと

蓮あしな節ふしとのいい

葦あし
あし

蓮あしな
あしな



○首白一寸九節

かるりの瓜葛

蒲と名有冬至

の後五十七日

てんしゆてん

○菰の水色に生

を菰やうり一名

艾草又蔣草云

○蒲の水色に生

を菰み織へ蒲

梔々まがこ花上の

黄(彩)と蒲黄と云

○萍の水よわり

て根か血色に如

菰蒲

菰

蒲

萍



頂書繪補則家圖景七

くたるとは草花

○薺の水色に生を

香附子の苗より

一名沙白臺

○薺の沢地は生を

薺の細く長く

麻痺ふ葉より

○薺の中へ補ひを

中を多く喰ひ

言はれり

と大実し

○薺の九月十月に

る緑色の緒と

一名黄草葉竹玉

○薺の水底に生を

薺の叙のじと上青

く下白く花

薺

薺

薺



本草綱目

養分小ほはる苧

ひれ

○むねの茎よく毛

あり養分をある

實もたるとかん

○蘇いんまの方

て養分よく齒五

久紫あり桂蔭同

実も養分も薬種

ふかしら白

○莢多からくらん

やれ水氣面よく

ふらと活目とぬま

○苧蓄の三月

らいつに赤と花と

せんと和名ふと

き扁竹同

苧蓄

苧蓄

蘇のそ

苧たで

水苧

ひれ



頂書留補川蒙園表七

○菊の百種あり

花も数本の成

痛目減ゆるも

一年とのふ

つる葉ふに若

く菊三種あり

○芒の茅やこり

皮の繩より履ふつ

くもかりえと石芒

小と芭芒とのふ

○荏の白蘆とも

り山野ふ多く

生と油あり

えのわやうとのふ



○牽牛の葉三

尖のり花のびと

き白のびと

あをのびと

て紅のびと

も品をのり

○鼓子の花の

ら軍中に吹鼓子

のこし故の鼓子

花のふた旋苗

花のもの

○蒴藿の枝

五葉花白く実

青く緑豆のじ

痛ふ

薬

一名接骨草

鼓子

ひび

牽牛

のこ

蒴藿

のこ



○瞿麥の花の色
うしやう

落ばふ六月ふさく

河原に多しを

比の彩花わりき

もふくわり

○石竹の梅子ふさく

細く花紅白ふは

なご種わりふ

月ふ花き一重ふ

まわり

○玉簪の葉ふさく

秋花さく久うと

教ふわりとふ

まり一名白鶴仙

瞿麥



石竹



玉簪



○蒼木の花うと

赤一脾ととこや

み一濕気な中

とゆくと山藟と

もつ一花ゆとい白木

○本賊の目のとを

を還積塊と消と

和名とくと板を

おろ一磨は用白

○山葱二名と漏

葱とも又鹿耳

葱とも又俗ふ

ゆいさやうとん

にくちんと

蒼木

かけら

木賊

とく

山葱

えんげ



○石荷いしかり一名虎耳こじみみ
 草くさといふ水湿みづしつの地ち
 に生なると五月ごがつ花はな咲さく
 ○馬勃まがつの湿地しつちとす
 本もとのうへすと小生せうせい
 どのどのいふとふ瓜うり
 治ちを二灰ふい菘そう牛尿ぎゅうにょう
 菘そうといふつく
 ○石韋いしがいの湿地しつちに
 生なると葉は大おほくして
 切きつて皮かわのこし敷し
 めく一ひと葉はつすほど
 勞熱ろうねつの氣きとつと
 たり麻痺まひを治ちす
 ○螺廡らふん一名鏡面きやうめん
 草くさといふ石上いしの上に生なま
 びとさす又豆まめといふ



石韋
いしがい
ひつを

石荷
いしかり
ゆけのき

馬勃
まがつ
あふ
うま

螺廡
らふん
まめげ

○芭蕉の葉落

ど一葉のつる附の

一葉焦しくてこ

まぬ芭蕉といふ

○芋皮とんぼ

布と織りし布の

ことを行同り

うーともいふ

○艾の玄苗といは

秋よき花うく文

蒿かりつ蓬草

といふ

○蕪の腰背とい

はこころいふ瓜

腎とさういふ節

とさういふ精瓜

す目とぬよを



芭蕉

芋

艾

蕪

○華蔓草ウツクサハ

きのころらけんの

かきふふくひら

為ウツクサ紅ベニ多タ三サン月ツキ

花ハナさく

○鼠麴ネズミクハハふくフクまき

る花ハナさくサク前マエの耳ミミ

の毛ケねネくクあアまマと

生ナとト又マタ前マエ耳ミミ草クサと

もモつツ

○羊蹄ヤマトハハ名ナ禿ツル

菜サイもモ又マタ牛ウシ舌ゼツ菜サイ

とトもモいイ入イ実ミとト合アヒ蓋ケツ

麥マクとトいイ

華蔓ウツクサ

鼠麴ネズミク

羊蹄ヤマト



○ 陵苕のうせんの本にま

らふあつ其そのるると秋あきと

花はな咲さく赤あかく又また

○ 陵宵のうせう花はなといふ

○ 藍あいの葉は蓼れうふ

似にく大おほいいるる

ての如ごとく葉はの中なかに

置おくくるる五ご六ろく月げつ

紅べにの花はなうう茶ちや瓜か

深ふか色いろににららむ

○ 茜あざいいのの久くと

ととひひ草くさかりり一いっ

名な地ぢ血けつといいふふ深ふか

鮮あざ草くさといいふふ

本草綱目 卷之十

茜あざ
いい

陵苕のうせん

藍あい



○山薑の葉姜

似て花わし子

草豆蔻少て収

杜若ゆきり名

美草

○澤漆の葉馬齒

莧ふ似りる漆

てみどり毒草花

うく毒草かり

○莧麻の葉靴の

葉のてく中空

志んふみこを秋

花さけ実瓜ひを

ふ実小刺わり

山薑

あざと

莧麻

たぐま

澤漆

たぐ



頂書曾浦川段圖集上

廿九

○蒼耳の葉茄子

のど風湿つぼ

氣分まじ目とゆ

小一ちびちび

○車前あかたこ

とゆと七八月の比

実とる若菜牛

舌同

○龍芮りゅうじの四五ご月小

葉から花と実

とひとふた豆の

とく一名地楯

○防風ぼうふうの正月ご月

葉と生うす月

に葉ある花さき

六月ふくろと実と

いす



蒼耳そうじ

車前しゅうぜん

龍芮りゅうじ

防風ぼうふう

葉と珊瑚菜あざとさんごさい

○鼠芥の葉は天

茗多の葉れごとく

毒あり

○葛の粉の湯と止

るつとどとあ胃と

ひつき酒とと解

し大小便と利

熱をさる

○紫草の九葉と

つじ水と利しと

ま爪消とやうさ

うけう一名菘

菜とのし

○鴨跖の野外に生

む花あを

碧蟬花 筴竹花

並同

鼠芥

葛

紫草

鴨跖



本草綱目卷之...

○南星の同疾と居
 一乃瓜や芋のこま
 なるころかほく虎
 掌鬼蕒蕒と云
 ○防己の同湿脚氣
 の痛と活一癱れ
 痛と活と解離た云
 ○牛膝湿小してまひ
 久腰脚いしと活
 山萸菜對節菜
 とあつ
 ○水菺のあつにけ
 葉とす口にはきい
 つつあり大毒あり
 ○絡石の葉搗の如
 く花白く実くら
 石とまき

天南星

防己

牛膝

絡石

水菺



○茴香ハ疝氣を

のぞけ腰をのい

きと瓜や胃瓜

わく心懐香同

○稀荻花英

白かり一葉の毒

虫のうらふふけ

葉瓜りて汁を

飲くとよい

○天茄ハ一名諸葉

そのへんふかよせ

小ぢり八月のえん

ゆき白花とひら

きやとまると葉の

茴香



ふきの
おも

稀荻

り

り

天茄



本草綱目 卷之七 菜部 天茄

○苦の葉は苦く又毒
 苦の葉は苦く又毒
 同邪氣を拂ふ
 ○荒蔚は益母草
 どのく湿地に生ずる
 ○茵陳は葉のう
 ら白くすくす丸
 月小やをた葉か
 るれはく
 ○玄及の葉と五
 味子とのへはどお
 あにつけをいれ
 たらつと油のうら
 に髪ふけり
 ○地膚は若葉とく
 らんを掃掃同
 此本と掃とと

青蒿 せいこう

荒蔚 あらい

玄及 げんじつ

さうろく

茵陳 いんちん

らうりや

地膚 ちふ



○忍冬の葉にま

く入葉末をくわ

三四月花さく和

く後葉をかり

金銀花といふ

○茅の水とく血

と破り小腸とく

消渴鼻血下血

治と又茅といふ

○萍蓬の水沢小

生を煮ふ忍姑小

ゆり水栗骨

蓬同

○藻の水よる葉

大なるる藻葉の

やを死水蘊と云

る尾藻やと云

豆言叶不言家臣等

忍冬 とんとう

茅 ちやう
菅茅 かんちやう

白茅 はくちやう

藻 そう

萍蓬 ひやうとう



○菘菜の山野

多く 莖く 下

て 刺わり 葉を 多く

大い して その 蹄

の おろし 秋 あり 丸

実 の

○秋の 郊野 よし

どろ 瓜 野 菘 と 云

葉 さい たり たり 花 あり

三 五 丈 城 野 といふ

花 紅 白 あり して 多く

秋

菘菜



頂書言蒲川菘菜園景士

廿三

豆言抄 和言部 蘭草

○建蘭けんらんの今いまは

白蘭はくらんカケか一ひとり

蕙花けいけともとものの文ぶん

鉄脚蘭てつきゃくらんともとものの文ぶん

○金燈きんとうハ石蒜せきそん

ととのの今いまははとともももも也や

一名ひと鬼燈おにとう繁はげ又また

蔓珠まんじゆ沙花さけともとも

今いま秋あきのの末すえ花はなとと

花はなききくく茎こゝろハハ矢や久く

のの如ごとくく一ひと枝えだ若わか

建蘭けんらん
ととのの今いまはは
とともももも也や



金燈きんとう

きつこの

と

○石帆いしぼんの石上いしの上よよ生せいじ

○莖くきいいくくささののりり

莖くき同どう莖くきのの夜よ々々

苞ほうととののすすららぬぬ也也

草根くさねとと葉はととののりり

ささののりり

○臺たいののりり高たか々々

ごごののりり々々草くさ

同

○葩はいいくくささののりり

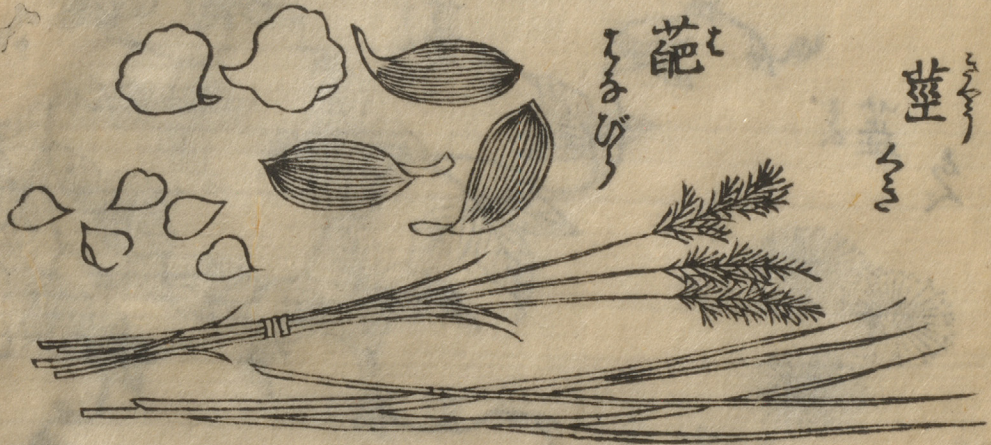
花片はなぺん花はな瓣はん並ならび同どう

莖くき

くく

葩は

いいくくささののりり



石帆いしぼん

ううままろろ

臺たい

たた



六

蔓草科 補骨脂属 蔓草

四

○蔓のほろあり
本の本と花と入り
草のホトトギス

○苞つがとあり
蓇葖同

○葢の花のま
なり 蕊 葇荑
らびふ同又花心
そもの

○葇荑のま
かろ花蒂花
附ふらびに同



蔓

葢

葉

苞

葇荑

花心

花蒂

花

